

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門造形高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ等を活用し、系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。全HR教室のプロジェクタ、特別教室の大型プロジェクタを授業実践で活用することで不断の授業改善に努力し、授業の「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」を向上させる。また、「学習動画」やオンライン授業、教育アプリ等を活用し、予習・復習といった家庭学習を習慣化させ、すべての教科で学力向上を図る。

イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、表現力や思考力を鍛え、作品だけではなく言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。

※学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答 (R2 84%、R3 90%、R4 88%)を90%にする。

※「発信力」の育成について、プロジェクタや1人1台端末等のICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業(教科・科目)で設定する。学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答 (R2 83%、R3 90%、R4 91%)90%以上を維持する。

2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成

(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。

ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。

イ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、住之江区に限らず大阪の地場産業・地域文化を学び、「ものづくりの街」「文化芸術の街」大阪を全国に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にす心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。また、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。

ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。

エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。

※進路指導の指標として、学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答 (R2 91%、R3 94%、R4 91%)「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 (R2 91%、R3 92%、R4 92%)、いずれも90%以上を維持していく。

※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和7年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持していく。学校教育自己診断において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 (R2 89%、R3 91%、R4 91%)90%以上を維持する。

※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」「ノークラブデー」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。

ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門造形高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。

イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。

ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。

エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。

※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくっていく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど専門造形高校ならではの活動について推進する。学校教育自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答 (R2 99%、R3 99%、R4 99%)を、95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」(R4 新設 61%)の肯定的回答を65%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
----------------------------	--------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員が1人1台端末を活用し、すべての教科で、学力の向上 イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実 ウ 言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる エ 造形文化への理解・教員の自己研鑽	(1) ア すべての教科で1人1台端末などのICT機器を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、家庭学習を習慣化させるために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。 イ 造形活動に必要な幅広い知識・実技力を身に付けるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。 ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行い、表現力や思考力を鍛える。言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。 エ 美術館等と連携し、現代の作品、世界の作品、伝統工芸作品に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。 また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。	(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答を90%にする。[88%] ・1年生で実施する外部テストの結果について、1回めに比べ2回めの到達ゾーンを下げないようにする。[国数英計] イ・学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[92%] ・「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答90%以上を維持する。[93%] ウ・学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%] エ・国内外の作品に触れる機会の設定回数を昨年並みに維持する。[9回] ・小中学校対象教員実技研修、PTA対象文化講座の実施(指導技術の向上)	
2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリテイをもった人間の育成	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリテイをもった人間の育成 ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実 イ 地域連携の促進と大阪の地場産業・地域文化の発信	(1) ア・美術造形との生涯に渡るかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 ・キャリア教育に関する講演会等を実施する。 イ・大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。大阪の地場産業・地域文化の企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。 ・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感	(1) ア・学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%] ・「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答を、75%以上にする。[73%] ・卒業生による講演会『ようこそ先輩』を実施する。 ・大学等による出前授業を実施する。 ・画材業者による材料に関する講座を実施する。 イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]	

	<p>ウ 高校生活をより充実させるための目標設定と支援。教育相談体制の充実</p> <p>エ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持</p>	<p>を与えるとともに、生命を大切に心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。</p> <p>・地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。</p> <p>ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。</p> <p>エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。</p> <p>・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。</p> <p>・部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデイ」を確実に実施する。</p>	<p>・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答を85%以上にする。[84%]</p> <p>・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答を80%以上にする。[78%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答90%以上を維持する。[92%]</p> <p>・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答80%以上を維持する。[80%]</p> <p>エ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%]</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブデイ」を確実に実施する。</p>	
<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす</p> <p>イ 日本一の専門造形高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実</p> <p>ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進</p> <p>エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。</p> <p>「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校(全国副会長)」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすと同時に、「港南展」をはじめとした独自行事、取り組みのより一層の発展を図る。</p> <p>イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。</p> <p>ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進。</p> <p>エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」肯定的回答99%以上を維持する。[99%]</p> <p>・令和8年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会大阪大会に向け、準備委員会を3回以上開催する。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答85%以上を維持する。[86%]</p> <p>ウ・小中学校教員対象実技研修を実施する。</p> <p>・全国美術系大学短大合同説明会を実施する。</p> <p>・高校展分散開催の会場として本校体育館を活用する。</p> <p>エ・学校教育自己診断における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答65%以上にする。[61%]</p> <p>・海外研修を実施する。</p>	